

2 (2) その他, 特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果, 世界的位置付けなど。(※評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容)

特筆すべき教育活動

佐藤源之教授は、2002年度より文部科学省の援助を受けて地雷検知装置の開発を行い、車載型SAR-GPRとハンドヘルド型ALISのプロトタイプを完成させた。2007年10月より2008年5月までクロアチアにおける実地雷原でのALIS評価実験を実施し、従来の金属探知機に比べてその高い性能が証明され、ODAなどを通じた現地の地雷検知の効率化に寄与することが期待されるものとして注目されている。

特筆すべき研究活動

平成19年度、20年度の総長裁量経費を獲得して実施している「防災科学研究拠点」構築事業(代表者・平川新教授)は、センターの特色である多分野連携型の学術研究を代表する研究であり、従来はインフラに主眼があった防災に対して、生命、文化、心といった多次元からの総合的な災害対応を探求するものとして注目を集めている。

特筆すべき社会貢献活動等

上述の佐藤源之教授の地雷検知装置開発は、世界各地の紛争地域における地雷除去に貢献するものとして、国際的に評価と期待を集めている。また、同じく上述の平川新教授を代表とする「防災科学研究拠点」構築事業(平成19年度、20年度の総長裁量経費事業)は、宮城県沖地震発生の可能性が高まる中、地域社会にも大きな貢献が期待できる事業として注目を集めている。